

成果指標				
成果指標	安否確認率を成果指標とする。			
指標設定の考え方	ひとり暮らし高齢者の安否確認率の向上を図ることが、高齢者の自立支援及び生活安定のために資するものとする。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	20%	20%	20%	0
実績	17.6%	19.6%	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	見守りが必要な高齢者が安心して生活が出来るように、弁当配食にあわせて声かけ等の安否確認を行うことにより、利用者からは喜ばれており、継続して実施していきたい。しかし、コストの問題や新規事業者の参入などの課題については今後検討していく必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	2	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	安否確認率も徐々に上がってきており、同事業により高齢者福祉の増進が図られているものと判断する。3事業者によって事業が行われているが、コスト面について更なる検討が必要である。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	現在、3事業者において事業を実施しているが、単価が違っており、コスト面での検討、事業のあり方について、評価委員の意見を伺うため。

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<p>・この事業は是非ともがんばってやってもらいたい。・安否確認数という言葉がいいのかどうかという話だと思ふ。・見守りは必要だと思ふし、制度自体やってもらっているのだが、対象者数が少ない。ほかの制度と組み合わせた方が、より万全かなという印象を持った。しないよりは絶対いいのだが、もっと対象者が増やせるよう考えてほしいと思ふ。・サービス料金に格差があり同一にすべきというなら、これだけの人数の見守りをいくらでやれるか入札にすればよい。・サービスは安い方がいいので、そうしてもらおうと思つた。すごく良い事業だと思ふが、人数が少ない。・外部評価に付されたきっかけは、監査委員から格差をなくすべきという意見が出たということであるが、中山と双海を混ぜて一律というのは悪平等となると思ふ。拠点や距離、勾配が全然違ふ。一律が民主主義、合理性を担保することにはならないと思ふ。委託料を一律にとは必ずしも思わない。・弁当についてはもっと選択肢を与えた方がいい。サービスは十重二十重のセーフティネットを考えた方がいいと思ふ。</p>
---------------------------	--

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>下記の点を見直しの上、継続する。</p>
<p>意見、課題</p>	<p>各地区の実情に応じた経費を計上すること。ただし、改めて積算を行い、単価計算を起すこと。</p>